

活動報告書

報告日付:2020年4月15日

事業ID:2017459123

事業名宮崎県宮崎市における第三の
居場所の運営(2年目)

団体名:(一社)日本プレミアム能力開発協会

事業完了日:2019年3月31日

1.事業内容

第三の居場所の運営

(1)期間:2018年4月~2019年3月

(2)場所:宮崎県宮崎市

(3)内容:「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完するため、拠点には専門スタッフを配置し、子ども達の生活習慣形成や非認知能力・学習意欲向上を図る。

2.事業内容詳細:

対象学校の児童生徒に放課後から夜21時までの間、安心して安全に過ごすことのできる居場所を提供し、宿題の補助や読み聞かせ、体験プログラムによって学習支援を行いながら、ニーズに応じて食事を提供し、歯磨き、入浴に関する生活習慣の形成をサポートした。また、学校や行政等各種関係団体とのケース会議に参加した他、保護者への相談援助業務を行うことによって子ども達が安心して過ごせる「第三の居場所」外における育成環境の醸成にも寄与した。

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

- 1.拠点利用児童の募集
- 2.児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供
- 3.保護者、地域、行政との関係構築
- 4.全国展開に耐えうる事業モデルの構築

【目標の達成状況】

- 1.行政と協力して拠点利用児童の募集を行った。
- 2.全開所日において実施した。食事の提供については児童と保護者の世帯ごとのニーズに応じた対応をとった。

3.保護者との関係性:

- ・お迎え時のコミュニケーションを重要視し、子どもの様子の報告をする。
- ・シラミがいる世帯とは特に話し合いをし、保護者の許可をもらい、拠点でスタッフ立会いの元でシャンプーをする。

地域との関係性:

- ・地区のケースケア会議を拠点で実施し、地域内に設備の整った施設があることを知ってもらう。
- ・ケア会議で、小学校の養護教諭に児童の現状を紹介してもらう。

- ・ケア会議を開いたことで参加者(地域の保育士・校医など)と顔の見える関係を築くことができた。特に校医とは連携が取れ、クリスマス会にも参加してもらえた。
- ・地域を知り、より愛着を持つために地区まちづくり委員会が実施した音頭の作詞募集に応募した。
- ・建物の入り口にどんな施設なのか分かるように壁面制作を貼り、通行人や地域住民の方に知ってもらえるようにしている。

行政との関係性:

- ・小学校の児童クラブ利用者にチラシを配布したところ、問い合わせがあり、1世帯2人の利用者が増えた。
 - ・児童クラブと併用している児童がいるため、児童クラブの先生と情報共有をしている。
 - ・誕生会に校長先生、児童の担任の先生、主任児童委員にも参加してもらい、拠点を知ってもらえた。
- 4.地域や行政との繋がりを重視しつつ、社会的相続を補完するための知見を蓄積し、他拠点にも展開できる仕組みを採用した。たとえば、掲示物「成長の木」を掲示し、職員と子どもが褒めたことをカードに書き「木」に貼っていき、成長の記録を視覚に訴えるよう壁面制作を工夫した。
5. その他 特になし。